

# 26th キネコ国際映画祭

## 各コンペティション、グランプリ作品決定！

一般社団法人キネコ・フィルムは、11月22日(木)～11月26日(月)の期間にて109シネマズ 二子玉川とiTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズを中心とした会場で、第26回目の開催となる日本最大規模の子ども国際映画祭「26th キネコ国際映画祭」を開催致しました。

そして昨日「クロージングセレモニー」にて、海外作品・日本作品のグランプリ作品が発表されました。各グランプリは、下記の通りです。

### <日本作品>

世界の子ども映画祭のディレクターや専門家である国際特別審査員によって選出されたグランプリは、以下の通りです。グランプリ作品は海外の子ども映画祭で上映されます。

#### ■短編グランプリ『モリモリ島のモーグとペロル』

監督：合田 経郎 日本/9分



©dwarf

#### ■長編グランプリ『星めぐりの町』

監督：黒土 三男 日本/108分



©2018 豊田市・映画「星めぐりの町」実行委員会

### <海外作品>

小学校4年生～6年生の子ども達15名で構成されたキネコ審査員が選出した海外作品のグランプリは、下記の通りです。

#### ■短編グランプリ『真っ赤なリンゴ』

監督：アナ・ホルヴァット  
クロアチア/8分



©Luma Film

#### ■キネコ審査員特別賞『ティム・ターラー ～笑いを売った少年～』

監督：アンドレアス・ドレーゼン  
ドイツ/102分



© Constantin Film Verleih GmbH/Gordon Muehle

#### ■長編グランプリ『生きのびるために』

監督：ノラ・トゥーミー  
アイルランド=カナダ=ルクセンブルク/93分



©Cartoon Saloon

## <審査員&受賞者コメント>

### <「日本作品」短編グランプリ/審査員（ダニエル・ルンドクイスト）コメント>

本作をグランプリに選んだ理由は、子ども達に友情や、自分のためじゃなくて“他の人と分ける”という大事なメッセージが込められていたからだだと思います。映像自体もとてもクオリティが高く、とても楽しく観れる作品だなと思いました。

### <「日本作品」長編グランプリ/審査員長（森本千絵氏）コメント>

この作品は、東日本大震災から8年経ちますが、まだまだ私達が忘れてはいけない事が沢山詰まっています。ここにいる子ども審査員含め、私達には大切な家族がおりますけども、本作は家族を失った少年のお話です。本当の家族はもう戻らないけども、大事な人との出会い、その大切な人と心が徐々に通っていく、じっくりとしたとても丁寧な作品です。とても素晴らしい作品となっております。審査員一同、この作品に出会えた事をとても誇りに思っております。

### <「日本作品」長編グランプリ/『星めぐりの町』エグゼクティブ・プロデューサー岩城レイ子氏 コメント>

主役の男の子は、本作での演技が初めての子だったのですが、監督はもちろん小林稔侍さんもしっかりと向きあって下さって、21日間の撮影を無事に終える事ができ、こういう形で皆さんに評価して頂ける作品になりました。子どもに対して、子どもだからと子ども扱いしないで、大人が正面から向き合う事が大切なんだと、この撮影を通して感じました。本当に素晴らしい賞を頂きまして有難うございました。

### <「海外作品」短編グランプリ/キネコ審査委員長コメント>

色々な家族の構成が描かれていることから、本作をグランプリに選びました。

### <「日本作品」短編グランプリ/『真っ赤なリンゴ』アナ・ホルヴァット監督コメント>

とても素晴らしい賞を頂きましてありがとうございます。この素敵な映画祭に来れた事もとても光栄な事だと思っています。

### <「海外作品」キネコ審査員特別賞/キネコ審査委員長コメント>

グランプリ作品に負けにくいらい、とてもいい作品でした。

### <「海外作品」キネコ審査員特別賞/『ティム・ターラー ~笑いを売った少年~』主演アーベット・フリーゼ コメント>

僕が一番好きになった映画祭で賞を頂けるなんて、とてもビックリです。今回、多くの素敵な人や時間を過ご

### <「海外作品」長編グランプリ/キネコ審査委員長コメント>

今もどこかの国で、差別や内戦が起きている現状を鮮明に表しています。世界の平和について深く考えさせられる映画です。主人公の勇氣ある行動や、家族の絆に心を打たれます。是非家族で観て欲しいです。

